

開催日：平成30年1月26日（金）

場 所：新軽井沢会館

■基本方針について、前回までの議論を基に次のとおり項目を整理し、検討が行われました。

- ・軽井沢駅北口を新たな拠点として育てる
- ・「軽井沢らしさ」を歩いて体験できるエリアデザインを展開する
- ・域外から他拠点への交通結節点としての機能を強化する

【主な意見】

- ・軽井沢の夏と冬は全く違うので季節変動についても考慮したらどうか。

■基本方針の実現化方策の例について検討が行われ、住民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たし、パートナーとして連携していくことが必要であることが確認されました。

【主な意見】

- ・住民、事業者、行政の連携のうち、行政の役割として“ルール作り”を加えたらどうか。
- ・実現化方策についてはPPP・PFIの活用を視野に入れたらどうか。

■個別課題①「駅前の交通機能のあり方」について、現況課題を整理のうえ、既存ペDESTリアンデッキを前提とした短期的な改善案と、ペDESTリアンデッキの改変も含めた大規模な改善案について検討が行われました。

【主な意見】

- ・駅前には車を乗り入れないようにする大胆な案もよいと思う。
- ・多くの方は駅から西側へ向かうため、バスターミナル等を駅西側に持ってくるのはどうか。
- ・ペDESTリアンデッキをどうするかを検討においては、当初の設置目的を勘案する必要があるのではないか。
- ・まずは目指している地域像やゾーンの使われ方を示す必要があるのではないか。

■個別課題③「駅及び駅周辺の町並みづくり」について、既存の「軽井沢駅前地区計画」の内容を確認のうえ、修景方針案の検討が行われました。

【主な意見】

- ・修景実現のためには制度などの仕組みを考えていくことも大切ではないか。
- ・駅前のケヤキの木が移植された経緯等を踏まえた空間づくりをするべきではないか。
- ・屋外広告物については規制だけではなく軽井沢にふさわしいモデルを示すことも必要ではないか。
- ・住民が景観を意識できるよう町が補助金等で啓発することが必要ではないか。
- ・ダボスなどの世界のリゾートの景観を研究して参考にすべきではないか。
- ・「軽井沢らしさ」、「軽井沢の顔にふさわしい」という表現の意味を明確にすることが必要ではないか。